

記 事

消 息

第27回富士川游学術奨励賞を受賞して

平尾真智子

健康科学大学

白隠禅師の仮名法語に「健康」の語が使用され、初出が1751年であることを明らかにした論文で富士川賞を受賞することができた。

看護学は明治期に欧米から輸入されたものである。そのため欧米の看護思想の影響がほとんど及んでいない時代における日本人の看護観を知りたいという思いがある。看護史研究会で富士川游先生が江戸時代の最高の看護書と紹介している平野重誠『病家須知』の翻刻に取り組んだのが江戸期に関心をもつきっかけになった。また同じ関心で仏教看護・ビハーラ学会の会員をしている。今回の白隠禅師の「健康」に関する研究はこの学会での発表がひとつの契機となっている。

江戸時代以前の「看病」と名の付く書名を国文学資料館のデータベースで検索すると白隠禅師の仮名法語のひとつ『お察に與ふ』(看病の要諦)がヒットする。そこで、白隠禅師の看病観というテーマで金沢の学会で発表した。その際、会場で会員である京都の妙心寺近くの寺院の住職から、寺院で白隠禅師の研究者で芳澤勝弘先生(花園大学)の話聞く小さな会を開くので、聞きにこないかという誘いを受けた。そこでその会に出かけ、芳澤先生の講演を聞き、白隠禅師の人柄の一部を知ることが出来た。講演後に参加者からの質問の時間があつたので、思い切って白隠禅師の『夜船閑話』の序文にある「健康」のことを聞いてみた。

それは白隠禅師の看病観を調べるうえで、テーマ周辺の病気や健康法に関する文献についても何気なく目にとめており、論争になっていたことを知っていたからである。日本医史学会関西支部の



杉浦守邦先生が『医譚』に書かれていた論文に「再度、健康という語の創始者について」(2011)があり、先行研究の青木純一「健康の語誌的研究」(2007)が白隠禅師の『夜船閑話』の序文にある「健康」を初出としていることを批判し、認めていないことを知っていた。芳澤先生に白隠の「健康」の初出をめぐる、論争になっていることを伝えたことが研究のきっかけになった。芳澤先生はそのときは「調べてみないとわからない」という回答であった。しかし、このことがきっかけとなり研究への協力が得られることになった。

芳澤先生は白隠禅師『仮名法語集』全14巻を編集されていた。15巻目は総索引であったが、そこに「健康」の項目はなかった。後できくと、そんなに白隠と健康が重要だとは思わなかったので取り上げなかったとのことであった。そこで、この

全集を古書店から一括で購入し丹念にみていくことにした。また『夜船閑話』は重要な書であると思ひ、これもネットでみつけ古書店から実物を購入した。また白隠禅師ゆかりの沼津市原の松蔭寺も三度ほど訪れ、白隠禅師の書画や、人物を模した像をお参りさせていただき、墓参も行った。

さらに先行研究をみていくと、1991年に関西支部の奥澤康正先生が京都医報で、「健康」の初出について調べられていることを知った。中国人の研究者から質問があり調べていたとのことで、今回のテーマの最初の提唱者であった。

研究の結果、仮名法語など著作の16ヶ所に「健康」の語が使用されており、その初出は1751年であることが明らかとなった。白隠禅師と健康の研究資料を取めたクリアファイルは13冊となった。健康への関心から白隠禅師の仮名法語をみていたが、これらの著作から白隠禅師の思想・人柄を知る機会ともなった。禅の精神をわかりやすく庶民に説いている。その願心・工夫・ユーモアのセン

スに触れることで得るものが多かった。日本にこのような仏教者がいたことを知りうれしくなった。そういえば白隠は500年に一人の逸材といわれる人物であった。

医学史を広い視野から研究する本学会において「健康」は保健、医療、衛生、公衆衛生、看護、教育などの領域においても共通のテーマであり、目標とするところである。看護史が専門の筆者にはもちろん「看護思想」が中心テーマであるが、関連する用語としての「健康」にも関心がある。昨今はナイチンゲール生誕200年で筆者もナイチンゲールの看護思想に視点をあてた研究をしている。

今回の「健康」の研究はちょっと寄り道をした思いがある。しかし最近「セレンディピティ」という言葉が流布しており、まさに今回の研究は「素敵な偶然」と「予想外の発見」があり、富士川賞を受賞することができた。

例会案内

日本医史学会 1月例会

令和4年1月22日(土)

オンライン開催

1. 「ペラグラ再考——歴史の変遷と課題——」

伊藤泰広(トヨタ記念病院 脳神経内科)

おもに18~20世紀前半にヨーロッパやアメリカ南部で深刻だったペラグラが、日本で注目されることは少ない。ペラグラ史を概観し、現代での課題に触れたい。

2. 「我が国の腑分けの歴史と近代整形外科の父・各務文献」 今井 秀(今井整形外科)

1800年に婦人の腑分けを行い、さらに真骨骸を解剖して骨関節機構を解明し、その実証的科学精神から整形外科の近代化に貢献した各務文献についてお話しします。

日本医史学会 3月例会

令和4年3月26日(土)

1. 「「五体身分」系医書の研究」富田貴洋(森之宮医療大学大学院修士2年)

平安鎌倉移行期(『喫茶養生記』の後、『頓医抄』の前)に成立した可能性について考証します。

2. 「日本経済の父渋沢栄一の社会事業について」

稲松孝思(東京都健康長寿医療センター 顧問)
経済人・渋沢栄一が取り組んだ社会事業の全貌と養育院事業

以上は変更の可能性がありますが、必ず開催直前に医史学会のサイトをご確認ください。



<http://jsmh.umin.jp/events.html>